

中学生の「税についての作文」

新潟県納税貯蓄組合総連合会 優秀賞

道路にかけた魔法

上越市立直江津東中学校 三年

山崎 梨々香

「いつもの通学路、工事で通れなくなるんだって！しかも六か月も。」
「じゃあ、田んぼのあぜ道を通ることだよ？雨が降るとあの道、ドロドロになるから靴が汚れるし、どうしよう…」

学校から配られたお知らせを見て、私は一緒に登校している友達と嫌な気持ちになりました。そのお便りは「道路工事に伴う通行規制のお知らせ」でした。

私の学校は、周囲に田んぼがあります。普段通っている通学路は舗装されているので、歩きやすいし、雨でドロドロになることもありません。私はそれを、当たり前だと思っていました。しかし、これからはその「当たり前」が「当たり前ではない」のです。

交通規制が始まり、私は田んぼのあぜ道を通るようになりました。毎日通いなれた道ではないので、「靴に小石が入って歩きにくい」「今までより学校に行くのがおっくうになる」など、不満ばかり感じていました。

あぜ道で通学するようになってからしばらくして、学校で租税教室

が行われて、税理士の方から税についてのお話をお聞きする機会がありました。税金は、警察や消防、学校、公民館など、私たちの暮らしが安全で便利になるために使われていることは、小学校の社会で習っていました。租税教室で、それだけでなく、科学館やプールなどで、毎週土曜日に無料で入場できる「上越子どもの日スポーツ」も、税金によって利用できていることに気が付きました。私たちが、「当たり前」のように利用しているものには、税金で成り立っているものが多いのです。

私は、租税教室をきっかけに、「通学路の工事でも税金が使われているけど、一体何のために六か月間も工事をするのだろうか？」と気になりました。今まで全く関心がなかった工事説明の立て看板を見てみると、道路を広くするためだと分かりました。思い出してみると、家族で長岡市や柏崎市に出掛けた帰りには、その道路はいつも混んでいました。道路を広くすれば、渋滞が少なくなり、人や物が早く移動できるようになります。お母さんは「道幅が広いと、トラックとか大きな車が近くを走っていても、周りが見えるから運転しやすい。」と書いていて、その立場でないとなかなか分らないよさもあるのだと気付きました。私が知らないだけで、税金は本当にいろいろな立場の人たちのために使われているのだと思いました。

通学路の道路工事と租税教室から、私は、「税金はどんなことに使われて、それによって私たちの暮らしがどのように変わるのか」を考えるようになりました。そのためでしょうか、通学であぜ道を歩く足取りがちよっと軽くなったような気がします。